

6月26日（月）その35 うんこ漢字ドリル

先週、新聞の読書欄にある「本の売り上げランキング」を眺めていると、「えっ、なんだこりゃ！」とわが目を疑うようなタイトルがあった。「うんこ漢字ドリル」という本だ。那覇の本屋で1位、名護の本屋で2位だ。

翌日のヤフーニュースで、「なぜうんこは子どもに人気なのか、漢字ドリルが260万部」という記事を見つけた。全国の小学生の数は640万人だから爆発的な売れ方で、低学年のものほど売れているという。

ネット検索をしてみると、文響社という出版社から発売されている「うんこ漢字ドリル」は、小1～小6までのドリルの漢字の例文3018にすべて「うんこ」に関連しているという奇抜なコンセプトが受けているという。

- 雪女のうんこはこおらかな（小1）
- ここで今すぐうんこをすることもできるんですよ（小2）
- 予約していたうんこを取りに来ました（小3）
- 英語さえわかれば、アメリカ人ともうんこの話ができるのに（小4）
- 会社にうんこの絵をかざったところ、業績が上がったそうだ（小5）
- 一回一回のうんこを誠実に積み重ねてきた（小6）

昨日、本屋に行って一冊買ってきたので紹介しよう。4年生の「うんこ漢字ドリル」だ。（実物を見せ、いくつか紹介する。）

出版元の文響社の社長は、若い世代の成長を促す教育関係の本を作りたいと考えていた。友人に「うんこを題材に川柳を作る趣味」がある奴がいたことを思いだし、うんこ教育を合体させたら面白いに違いないと思って、「漢字ドリル」が頭に浮かんだという。

うんこ漢字ドリルは、「うんこのリアルさから遠ざける」のが編集方針であるそうだ。全体の色遣いやデザインがきれいで、例文に関しても、「臭い」「茶色」などの直接的な表現は使っていない。リアルから遠ざけ、非現実的な文脈の中にうんこを置くことで、「あるわけないじゃない」とツッコミを入れて、距離を置いて楽しむ。大人も子どもも受け入れられる絶妙なバランスが実現したのである。

それにしても子どもはなぜ「うんこ」が好きなのだろう。ここでいう子どもとは、小学校高学年の女子を除く。少し時間をかけてネットサーフィンをして調べてみた。次の3点に集約されるかな。

- ①日常性からの逸脱……日々の何気ない日常の会話の中に、ひょいと「うんこ」という非日常性が投げ込まれる。すると、そこに笑いが爆発する。
- ②禁止されれば使いたくなる……毎日自分の体から排出されているのに、親はそのことを話題にしないし、むしろ使わせないようにしている。やるなと言われれば余計やりたくなるのが子どもの心理である。
- ③くだらなさの共有……男子の友達意識は、[強さ]、[かっこよさ]を志向するようになる一方で、「下品でくだらないもの」を共有するのである。そのような過程の中で、友だちの絆を深めていくのだ。

上に書いた子ども達は、まだ第二次性徴期に至っていない。生理や射精体験のない彼ら（高学年女子、高学年一部男子を除く）にとって「うんこ」、「おしり」、「おしっこ」などは、下品な笑いを生む下ネタの象徴なのである。

出版界は、柳の下での2匹目のドジョウを狙うのだろうか？

6月27日（火）その36 文章がすらすら書ける理由

「あなたの文才は、数百通のラブレターで鍛えたからなんだってね！」と唐突に言われました。先週 22 日（木）、幼稚園等の臨任教諭研修会の講師の照屋由紀子先生は、37 年間那覇・島尻地区で中学校の音楽教諭をやって、合唱や音楽の授業実践等、定評のある方でした。でっかい中学生の野郎どもを、ビシ、バシ、ビシと鍛えることのできる方でした。

私は 20 年ほど前、照屋由紀子先生と同じ職場で働いたことがあったので、研修の始まる前の短い時間、思い出話に花を咲かせることができました。話の最後に「5 分間所長講話」をやっているという話をし、サンプルを差し上げたら、彼女が「あなたの文才は、数百通のラブレターで……」と、冒頭の言葉を言いました。「えっ！何で知ってるの？……あ、でもあの頃、酒の席で同僚に話したような記憶もあるな！」と思いました。

この講話はネットにもアップしているし、妻にも語ったことがない話なので具体的には語れないが……。高校時代から遠距離恋愛の彼女がいて、毎日のように交換日記感覚で手紙を書いていた。今のようにメールも携帯もない時代、固定電話すらアパートにはなく、自由には話せなかった。

あれは大学二年の冬、……社会人だった彼女は、彼女の近くにいた私の知らない男にさらわれてしまった。♪♪ラブ イズ オーバー（笑）涙にむせびながら（笑）、200～300 通くらいの手紙を全部燃やした！

マイペース（歌手名）の「東京」、野口五郎の「甘い生活」、伊勢正三の「22 才の別れ」は、彼女を思い出す歌だ。そして森田公一とトップギャランの「青春時代」を聞くと、ほろ苦い青春時代の思い出がよみがえってくる。

話は変わるが、義務教育課長時代に各市町村の教育委員や教育長の皆さんの前で講話をしたことがあった。研修会が終わって立食の「情報交換会」があり、全く面識のない一人の女性が私に近づいてきて、意外な話を切り出しました。「大変お話が上手で感動しました。お話が上手なのは、お母さん譲りなんですね。」と言った。……「!? 私の母ですか？」と聞き返すと、その女性教育委員は、「そうです」と答えた。私の母は、渡名喜島で専業主婦をやったので、教育委員の方などに知り合いはいないのでは？と思いました。

お話を聞いてみるとその方は、私の母が晩年入院していた介護老人保健施設の職員だということでした。母は病院でもよくしゃべり、昔のことをいろいろと担当さんに教えてくれたということでした。私は文章を書いたり話をしたりする力は、自分で努力して身につけたと思っていましたから、「母譲り」だと言われて新鮮な驚きで、大変嬉しかったことを覚えています。

文章がすらすら書けるというのは、考えていることを紙に写し取ればいいだけだから、誰にでも簡単にできると思っていました。でも、「そうじゃないよ、誰でもできることじゃないよ」と多くの人に言われて、「私のよさなのかなあ？」と、思うようになりました。

親から「光る玉の原石」をもらったのかも知れませんが、小学生のときには、よく昔話などの本を読み、そして高校生ときには交換日記感覚のラブレターを書いたり、大人になって読書をしたり、学級通信や自分の実践をまとめたりして、「光る玉の原石」を、多くの人の協力や自分自身の努力で磨いてきたことも確かです。今だって週 3 回、エッセー風の小論文を書いているようなもので、磨き続けているのだ、エヘン！（笑）

6月29日（木）その37 五十音図は、なぜ「あ」から始まるの？

前回、私の恋人を奪った男がいたという話をしましたが、もう一人いました。これもかなり昔の話ですが、「三浦友和」という奴です。しかも誕生日が私と同じ1月28日！……チクショウ。（笑）

山口百恵が引退前に執筆した自叙伝「蒼い時」を、涙をちょちょぎらせて読んだ覚えがある。（笑）彼女は日本武道館のさよならコンサートで、最後に「さよならの向こう側」を歌い、「幸せになります」とマイクを舞台の中央に置いてスクリーンから消えた。……私は半年間、喪に服した。（笑）

月曜日のNHKテレビで、さんまの「明石家紅白」という番組があって、山口百恵の長男が出ていたが、お母さんにそっくりでしたね。見ましたか？ しかも名前が「祐太郎」で、「朗」が入っていましたね。（笑）

おととい阿嘉さんが「学校へ行ってきます」と私の部屋の前で立ち止まり、あいさつをしたので、すかさず「カバンにうんこは入れたか？」と、言ってやりました。彼が「あはは」と笑っていました。

「うんこ漢字ドリル」は、研修生の皆さんもほとんど知っていましたね。講話の後も、その話で盛り上がりました。

さて、今日は漢字ではなく、「ひらがな」の話ですが、「うんこ漢字ドリル」とは違って、ちょっと高尚な話をします。特に「ひらがな」のプロだと思っている小学校の先生方、難問ですよ。それでは質問します。

なぜ「あいうえお」の五十音図は、「あ」から始まるのですか？

長い日本の歴史の中で、「あいうえお」で教えるようになったのは、明治になってからです。江戸時代の寺小屋では、「いろは歌」で教えていました。「色はにほへど散りぬるを 我が世たれぞ常ならむ……」というやつです。

古い時代の北部インドの言葉を「サンスクリット語」と言います。その発音をまとめた「悉曇（しったん）」という書物がありました。北部インドは仏陀の生まれたところで、西遊記に登場する三蔵法師こと「玄奘（げんじょう）」は17年の歳月をかけて北部インドに行き、ものすごい量の経典を持ち帰りました。彼はその後の人生の全てを、その経典を中国語に翻訳することに費やします。

その「悉曇（しったん）」が、奈良時代に仏教の伝来とともに日本に輸入されました。「悉曇」は、サンスクリット語のシッダム（siddham）を、中国語に翻訳したもので、古代インドの言葉が子音と母音の組み合わせを使って合理的に「あ」から始まって「ん」まで整然と並べられていました。

奈良時代以降の方々が、「悉曇」にあるサンスクリット語の音を日本語の音に置き換え、整理する研究が続けられました。そして千年くらいの歳月と多くの人の手を経て、だんだん「五十音図表」が作られていきました。

五十音図は、最終的には江戸時代の初め頃の「契沖（けいちゅう）」という人が完成させたと言われています。

もうわかりましたね。「悉曇」のサンスクリット語の並びが、「あ」で始まり「ん」で終わっていたんです。それに沿って日本語を整理していったために、日本語も「あ」で始まり「ん」で終わる並びになったのです。研修生の皆さん、わかりましたか？ ためになる格調高いお話だったでしょう。

今日学んだことを「うんこノート」に書いておきましょうね。